

学会員（教員）研究動向 [2015.4～2016.3]

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
赤井 正二	論文(単著)	『『交通東亞』とその周辺—戦争末期の旅行規制をめぐる軋轢—』(『立命館産業社会論集』51巻2号) 34-56頁	2015.9
秋葉 武	研究ノート (共著)	「韓国の「代案言論メディア」に関する理解—『ナコムス』『国民TV』『ニュース打破』の事例から—」(森類臣, 『立命館産業社会論集』51巻2号) 191-200頁	2015.9
	研究発表等 (単独)	「トラック共催における組合員参加」(共催理論研究会, 於: 主婦会館ブラザエフ)	2016.3
	研究発表等 (共同)	「韓国の社会的経済と協同組合」(森類臣, 日本 NPO 学会第18回年次大会, 於: 同志社大学)	2016.3
	研究発表等 (共同)	「管理会計に基づく NPO の経営基盤強化—委託事業から自主事業へ—」(山本由加, 日本 NPO 学会第18回年次大会, 於: 同志社大学)	2016.3
飯田 豊	著書(単著)	『テレビが見世物だったころ—初期テレビジョンの考古学』(青弓社) 全378頁	2016.3
	著書(分担執筆)	『メディア・リテラシーの諸相—表象・システム・ジャーナリズム』(浪田陽子・福岡良明・柳澤伸司編, ミネルヴァ書房) 328-350頁	2016.3
	論文(単著)	「2020年の『街頭テレビ』を想像する」(CHITEN (劇団地点) x KAAT (神奈川芸術劇場) 特設サイト) http://chiten-kaat.net/special_issue_13.html	2016.3
	論文(共著)	「複合メディア環境における『メディア・イベント』概念の射程—〈仮設文化〉の人類学に向けて」(立石祥子, 『立命館産業社会論集』51巻1号) 273-287頁	2015.6
	書評(単著)	「神野由紀『百貨店で〈趣味〉を買う—大衆消費文化の近代』(吉川弘文館, 2015年)」(共同通信2015年6月18日配信)	2015.6
	書評(単著)	「サーラ・クリストフエション『イケアとスウェーデン—福祉国家イメージの文化史』(新評論, 2015年)」(共同通信2015年11月19日配信)	2015.11
	研究発表等 (単独)	「発表会文化における『物言わぬアマチュア』」(『発表会文化論』の発表会, 於: 東京藝術大学)	2015.5
	研究発表等 (単独)	「大阪万博以後—複合メディア環境における『メディア・イベント』概念の射程」(戦後日本におけるマス・メディア受容と現代芸術の文化学, 於: 情報科学芸術大学院大学)	2015.7
	研究発表等 (共同)	「無線的創造力—ラジオ・アートの思想と実践」(毛原大樹, シンポジウム「呼吸する ART & DESIGN 2.2」, 於: 京都精華大学)	2015.11
	その他(司会)	「『文化産業論』を問い直す—カルチュラル・スタディーズからクリエイティブ産業論まで」(於: キャンパスプラザ京都)	2015.6
そ の 他 (コメンテーター)	社会情報学会 学会大会「メディア史, メディア文化」部会 (於: 明治大学)	2015.9	
石倉 康次	著書(共著)	「変容する福祉市場と地域における福祉供給—介護保険をめぐる—」(芝田秀昭他, 『介護保険白書』, 本の泉)	2015.4
	論文(単著)	「社会福祉法人制度改革の動向」(『障害者問題研究』42巻4号, 全国障害者問題研究会) 210-213頁	2015.4

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
石倉 康次	論文(単著)	「新オレンジプラン 活かせる点はどこにある」(『福祉のひろば』2015年6月号, 総合社会福祉研究所)	2015.6
	論文(単著)	「福祉労働の質を維持できる人件費算定根拠の確立を」(『福祉のひろば』2015年12月号, 総合社会福祉研究所) 34-38頁	2015.12
	論文(単著)	「地域医療連携推進法人と社会福祉法人制度の改正の問題」(『住民と自治』2015年12月号, 自治体問題研究所) 36-39頁	2015.12
	翻訳(監訳)	サラ・バンクス著「ソーシャルワークの倫理と価値」(伊藤文人・児島亜紀子監訳, 法律文化社)	2016.3
	研究発表等(単独)	「日本における社会福祉制度・政策の変遷」(日中社会福祉国際交流会—内蒙古師範大学と総合社会福祉研究所との交流会, 於: 内蒙古師範大学)	2015.7
石田 智巳	論文(単著)	「『わかる, できる, いきる』体育実践と教科内容研究実践」(『たのしい体育・スポーツ』290号, 学校体育研究同志会) 30-33頁	2015.4
	論文(単著)	「授業研究に活かす実践記録 書く・読む・深める(連載)第1回連載をはじめるとあたって」(『体育科教育』63巻4号, 大修館書店) 62-65頁	2015.4
	論文(単著)	「授業研究に活かす実践記録 書く・読む・深める(連載)第2回実践記録と授業研究(集団検討)」(『同上』63巻5号, 大修館書店) 58-61頁	2015.5
	論文(単著)	「体育同志会の研究課題と研究組織・体制づくり」(『運動文化研究』32号,) 104-113頁	2015.5
	論文(単著)	「授業研究に活かす実践記録 書く・読む・深める(連載)第3回『実践記録』の零度を探る」(『体育科教育』63巻6号, 大修館書店) 74-77頁	2015.6
	論文(単著)	「授業研究に活かす実践記録 書く・読む・深める(連載)第4回実践記録の戦後復興と体育界への批判」(『同上』63巻7号, 大修館書店) 58-61頁	2015.7
	論文(単著)	「授業研究に活かす実践記録 書く・読む・深める(連載)第5回体育における実践記録の登場1」(『同上』63巻8号, 大修館書店) 74-77頁	2015.8
	論文(単著)	「授業研究に活かす実践記録 書く・読む・深める(連載)第6回体育における実践記録の登場2」(『同上』63巻9号, 大修館書店) 58-61頁	2015.9
	論文(単著)	「体育における言語活動の課題とは」(『たのしい体育・スポーツ』294号, 学校体育研究同志会) 8-11頁	2015.9
	論文(単著)	「授業研究に活かす実践記録 書く・読む・深める(連載)第7回体育の実践記録の展開」(『体育科教育』63巻10号, 大修館書店) 74-77頁	2015.10
	論文(単著)	「授業研究に活かす実践記録 書く・読む・深める(連載)第8回科学的授業研究の興隆とそれへの批判」(『同上』63巻11号, 大修館書店) 50-53頁	2015.11
	論文(単著)	「授業研究に活かす実践記録 書く・読む・深める(連載)第9回科学的な知の絶対化と相対化」(『同上』63巻12号, 大修館書店) 74-77頁	2015.12
	論文(単著)	「授業研究に活かす実践記録 書く・読む・深める(連載)第10回体育実践にナラティブ・アプローチを読む」(『同上』64巻1号, 大修館書店) 50-53頁	2016.1
	論文(単著)	「授業研究に活かす実践記録 書く・読む・深める(連載)第11回実践記録をもとにした研究会」(『同上』64巻2号, 大修館書店) 74-77頁	2016.2
	論文(単著)	「授業研究に活かす実践記録 書く・読む・深める(連載)第12回実践記録は教師を生かす」(『同上』64巻3号, 大修館書店) 60-63頁	2016.3
	研究発表等(単独)	「ナラティブ・プラクティスとしての体育の授業と実践記録」(日本教科教育学会第41回全国大会, 於: 広島大学)	2015.10
	市井 吉興	著書(共著)	『教養のための現代史入門』(小澤卓也他, ミネルヴァ書房) 319-336頁

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
市井 吉興	著書(共編著)	『現代社会理論の変貌：せめぎ合う公共圏』（日暮雅夫・尾場瀬一郎編著、ミネルヴァ書房）1-13、127-148、189-190頁	2016. 1
伊藤 隆司	論文(単著)	「教科書の挿し絵をどう活かすか 『おにたのぼうし』を手がかりとして」(『語り合う文学教育』14号、語り合う文学教育の会) 7-16頁	2016. 3
	論文(共著)	「日中韓三か国における漢字教育の現状と課題」(文楚雄・盧載玉、『立命館産業社会論集』51巻4号) 13-34頁	2016. 3
伊東 寿泰	著書(単著)	“The story of Jesus and the blind man: A speech act reading of John 9 (Acta Theologica Supplementum 21)” (University of the Free State) 全538頁	2015.12
	著書(共著)	『新約聖書解釈の手引き』（浅野淳博・伊東寿泰他、日本キリスト教団出版局）173-206・207-244頁	2016. 2
	論文(単著)	「物語批評と宣教：説教におけるキャラクタースタディーを中心に」(『共同研究 新約聖書学と現代の宣教—学問と実践の協同を目指して』、日本キリスト教団出版局) 44-65頁	2015.11
	研究発表等(単独)	「新約聖書解釈の手引き：物語批評」(NTJ研究会、於：日本キリスト教団出版局)	2015. 8
	研究発表等(単独)	「物語批評とスピーチアクト分析」(シンポジウム「新約聖書の読み方」、於：日本聖書神学校)	2016. 3
乾 亨	その他(単著)	「地域住民組織のあしたを考える(1)～地域住民組織は必要か」(『まちむら』130号、光栄財団法人あしたの日本を創る協会) 33-35頁	2015. 6
	その他(単著)	「地域住民組織のあしたを考える(2)～求められる地域住民組織のあたらしい『かたち』」(『まちむら』131号、光栄財団法人あしたの日本を創る協会) 33-35頁	2015. 9
	その他(単著)	「地域住民組織のあしたを考える(3)～地域コミュニティを束ねる地域組織のなかみ(ひと)をつくる」(『まちむら』132号、光栄財団法人あしたの日本を創る協会) 33-36頁	2015.12
	その他(単著)	「地域住民組織のあしたを考える(4)～『地域と地域住民組織のあした』を創るために」(『まちむら』133号、光栄財団法人あしたの日本を創る協会) 33-37頁	2016. 2
	その他(コメンテーター)	「地域コミュニティのマネジメント」(コミュニティ政策学会第14回大会、於：ハイトピア伊賀)	2015. 7
文 楚雄	論文(共著)	「中国語リスニング力の養成について—検定試験4級合格のための授業実践—」(陳敏、『立命館経済学』第64巻第4号) 49-74頁	2016. 2
	論文(共著)	「日中韓三か国における漢字教育の現状と課題」(伊藤隆司・盧載玉、『立命館産業社会論集』51巻4号) 13-34頁	2016. 3
瓜生 吉則	著書(分担執筆)	「マンガに集う／マンガで集う」(浪田陽子・柳澤伸司・福岡良明編著、『メディアリテラシーの諸相』、ミネルヴァ書房) 205-226頁	2016. 3
漆原 良	研究発表等(共同)	「サッカーにおけるドリブル能力の変化に関係する能力の検討」(日本体育学会 第66回大会、於：国士館大学)	2015. 8
江口 友朗	著書(共編著)	『労働社会の変容と格差・排除：平等と包摂をめざして』(櫻井純理・吉田誠、ミネルヴァ書房) 41-59頁	2015.12

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
江口 友朗	論文(単著)	「労働・福祉を巡る制度アプローチの開発途上国への分析射程」(櫻井純理・江口友朗・吉田誠編著、『労働社会の変容と格差・排除：平等と包摂をめざして』、ミネルヴァ書房) 41-60頁	2015.12
	論文(単著)	「ディシプリンとしての経済学と制度アプローチの学際的可能性：レギュラシオン学派の言説から」(日暮雅夫・尾場瀬一郎・市井吉興編著、『現代社会理論の挑戦：せめぎ合う公共圏』、ミネルヴァ書房) 85-104頁	2016. 1
	論文(共著)	“Economic Value of Social Customs or Cultural Behaviors: A Case Study of Private and Autonomous “Mutual Assistance Payments” in Thailand and South Korea” (Arissara S, Kato R, Shin S, Journal of East Asian Studies 2557)	2016
	研究発表等(共同)	「制度的調整メカニズムとその空間を巡る理論的現状と課題：アジア諸国での社会的紐帯・人的ネットワークの経済的実態を踏まえて」(シンウドム・アリッサラー、進化経済学会第20回全国大会、於：東京大学)	2016. 3
遠藤 保子	論文(共著)	「ガーナ国立舞踊団(Ghana Dance Ensemble)における舞踊の練習に関する考察」(相原進、『立命館大学産業社会論集』51巻3号) 125-134頁	2015.12
	研究発表等(共同)	「ガーナ国立舞踊団招聘研究企画」(相原進、産業社会学部創設50周年企画、於：立命館大学衣笠キャンパス)	2015.11
大野 威	書評(単著)	「田中研之輔著『井家の経営—24時間営業の組織エスノグラフィー』」(『社会学評論』66巻4号、日本社会学会) 552-553頁	2016. 3
岡田 まり	研究発表等(単独)	「理論・モデルに基づく地域福祉活動」(日本地域福祉学会第29回年次大会、於：東北福祉大学)	2015. 6
	研究発表等(シンポジスト)	「いま、ソーシャルワーカーがなすべきことと次世代のソーシャルワーク教育の責務～次世代育成・教育の立場から」(第45回全国社会福祉教育セミナー 2015、於：同志社大学今出川キャンパス)	2015.10
	研究発表等(単独)	「ソーシャルワーク実践と社会福祉教育～実習・演習教育を中心に」(第45回全国社会福祉教育セミナー 2015、於：同志社大学今出川キャンパス)	2015.10
岡本 尚子	論文(共著)	「NIRSを用いた脳活動計測技術がもたらす教育神経科学の可能性」(黒田恭史・前迫孝憲、『日本レーザー医学会誌』36巻2号) 176-185頁	2015. 7
	研究発表等(共同)	「展開図の立体構成過程における眼球運動計測」(黒田恭史、第33回日本生理心理学会大会、於：グランフロント大阪)	2015. 5
	研究発表等(共同)	“Brain activity during processes of teaching and learning” (Yasufumi Kuroda, Redesigning Pedagogy International Conference 2015、於：Nanyang Technological University, Singapore.)	2015. 6
	研究発表等(共同)	「生体情報を教育学研究に活かすことへの躊躇とその克服」(黒田恭史、日本教育学会第74回大会、於：お茶の水女子大学)	2015. 8
	研究発表等(共同)	「マッピングにおける眼球運動」(黒田恭史、教育システム情報学会第40回全国大会、於：徳島大学)	2015. 9
	研究発表等(共同)	「図形課題解決時における助言者の視線移動特徴」(黒田恭史、数学教育学会秋季例会、於：京都産業大学)	2015. 9
	研究発表等(共同)	「二次元情報をもとにした三次元立体構成時における視線移動」(黒田恭史・中島悠、日本教育メディア学会第22回年次大会、於：日本大学)	2015.10
	研究発表等(単独)	「学習過程を生理学的に解明するとは」(第32回日本脳電磁図トポグラフィ研究会・第3回宮古島神経科学カンファレンス、於：ホテルブリーズベイマリーナ、沖縄県)	2015.11

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
岡本 尚子	研究発表等 (共同)	「図形課題解決時における学習者の視線移動特徴」(黒田恭史, 数学教育学会春季年会, 於: 筑波大学)	2016. 3
小澤 亘	論文(単著)	「外国にルーツを持つ児童生徒の学習権保障とデジタル教科書政策」(『立命館人間科学研究』33号) 63-74頁	2015.12
	論文(単著)	“Volunteer Sector facing the Super Aged Society in Japan” (Journal of Ritsumeikan Social Sciences and Humanities 7巻) 53-71頁	2016. 3
	研究発表等 (単独)	「『日本語』というバリア: ニューカマーの子どもたちと学習権の保障」(『東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター活動報告』2015年第3号) 113-125頁	2015. 8
角田 将士	論文(単著)	「社会科における『戦争と平和』の授業はオープンエンドの論争問題学習へ」(『総合教育技術』2015年8月号, 小学館) 54-59頁	2015. 8
	論文(単著)	「初期社会科における国土学習の特質—市民性育成と国民教育の接合に着目して—」(『社会科研究』84号, 全国社会科教育学会) 25-36頁	2016. 3
	論文(共著)	「見方考え方の成長を意識した小学校社会科の授業構成—第4学年単元『くらしと水』の開発を通して—」(平田早苗・平田浩一, 『立命館教職教育研究』3号, 立命館大学教職教育推進機構) 1-10頁	2016. 3
	その他(単著)	「アクティブ・ラーニング型 社会科授業実践の重要視点『見方考え方の成長を企図した授業づくりこそ』」(『社会科教育』679号, 明治図書) 90-92頁	2015.11
	その他(単著)	「これがおすすめ! 学年・分野別アクティブ・ラーニング授業モデル 小学3・4年『地域のお店のプラン作りから【企業活動】についての見方考え方を育てる』」(『社会科教育』680号, 明治図書) 36-38頁	2015.12
	その他(単著)	「中学校社会科歴史的分野における魅力ある授業づくりに向けて—知識伝達から見方考え方の成長へ—」(『中学社会 歴史的分野 教師用指導書 研究と資料編』, 日本文教出版) 20-23頁	2016. 3
	その他(単著)	「『主権者教育』における社会系教科の役割とは—社会の見方考え方の成長を企図した授業づくりこそ—」(『研究集録』52号, 大分県高等学校教育研究会地理歴史科公民科部会) 22-25頁	2016. 3
	その他(単著)	「中学校社会科教科書における市民性教育の起点と変遷—『国土・領土』の記述をめぐって—」(『市民性教育の成立と展開に関する日韓共同調査研究』平成25年度~平成27年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書) 108-120頁	2016. 3
	その他(共著)	『新 社会科授業づくりハンドブック 小学校編』(全国社会科教育学会編, 明治図書) 168-170頁	2015.10
	景井 充	著書(共編著)	『危機に対峙する思考』(平子友長他編著, 梓出版社) 470-486頁
加藤 雅俊	訳書(共訳)	R. A. W. ローズ, ジョン・ワンナ, パトリック・ウェラー著『ウェストミンスター政治の比較研究』(小堀眞裕共訳, 法律文化社) 全308頁	2015.10
	論文(単著)	「賃金稼得者モデルから転換するオーストラリア」(新川敏光編, 『福祉+α 福祉レジーム』, ミネルヴァ書房) 107-119頁	2015.11
	論文(単著)	「福祉国家の変容からみる公私ミックス—経済的繁栄の実現と政治的正統性の確保を通じた社会統合—」(松田亮三・鎮目真人編, 『社会保障の公私ミックス再論』, ミネルヴァ書房) 17-41頁	2016. 3
	論文(単著)	「ポップ・ジェソップの政治分析—戦略・関係論アプローチに基づく, 資本主義国家分析, その到達点と課題—」(『立命館大学産業社会論集』51巻4号) 159-178頁	2016. 3

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
加藤 雅俊	翻訳(単訳)	ジャン・Ch・カールソン著「社会構造と人間エージェンシー」(『立命館大学産業社会論集』51巻4号) 235-242頁	2016.3
	翻訳(共訳)	セバスチャン・ルシュヴァリエ著「日本の資本主義は今なお調整的なのか」(セバスチャン・ルシュヴァリエ著, 新川敏光監訳, 『日本資本主義の大転換』, 岩波書店) 95-114頁	2015.12
	翻訳(共訳)	セバスチャン・ルシュヴァリエ著「シリコン・バレーモデルが日本にとって唯一の道か」(セバスチャン・ルシュヴァリエ著, 新川敏光監訳, 『日本資本主義の大転換』, 岩波書店) 167-198頁	2015.12
金山 千広	その他(単著)	「障害者スポーツへの視線を」(オピニオンコラム『見る思う』, 神戸新聞) 7頁	2015.6
金山 勉	その他(単著)	「137億年の歴史を知るために(13)世界の行方を考える」(クリストファー・ロイド〈英語原著者〉, ミネルヴァ通信『究』49号, ミネルヴァ書房) 2-3頁	2015.4
	その他(単著)	「海外メディア事情:メディア合併と放送周波数競売—インターネットを軸に回る米国メディア界」(『月刊民放』, 一般社団法人日本民間放送連盟) 42-43頁	2015.6
	その他(単著)	「戦後70年 新聞の決意示した」(『メディア時評』, 毎日新聞) 9頁	2015.8
	その他(単著)	「読者関心に応える国際報道に期待」(『メディア時評』, 毎日新聞) 9頁	2015.9
	その他(単著)	「海外メディア事情:AT&TとディレクTVが進めるもの」(『月刊民放』, 一般社団法人日本民間放送連盟) 40-41頁	2015.9
	その他(単著)	「社会的な課題を巧みな構成・表現で伝える:ラジオ報道番組 平成27年度日本民間放送連盟賞」(『月刊民放』, 一般社団法人日本民間放送連盟) 7-9頁	2015.10
	その他(単著)	「ラグビー報道総合力発揮を」(『メディア時評』, 毎日新聞) 8頁	2015.10
	その他(単著)	「新聞経営の課題 知りたかった」(『メディア時評』, 毎日新聞) 9頁	2015.11
	その他(単著)	「ラジオ・メディアの来し方行く末:『能動的』な読者の理解と活用に任せる」(『週刊読書人』3116号, 株式会社読書人) 6頁	2015.11
唐鎌 直義	著書(共著)	『日本の社会保障, やはりこの道でしょ!』(都留民子共著, 日本機関紙出版センター) 10-87, 144-200頁	2015.9
川口 晋一	著書(分担執筆)	『メディア・リテラシーの諸相—表象・システム・ジャーナリズム』(浪田陽子・柳澤伸司・福岡良明編著, ミネルヴァ書房) 258-280頁	2016.3
木田 融男	著書(分担執筆)	「格差社会と階級理論—批判的実在論を通して—」(櫻井純理・江口友朗・吉田誠編著, 『労働社会の変容と格差・排除:平等と包摂をめざして』, ミネルヴァ書房) 13-40頁	2015.12
	論文(単著)	「批判的実在論とリトロダクション—社会科学方法論の比較から—」(『立命館大学産業社会論集』51巻4号)	2016.3
権 学俊	著書(分担執筆)	「朝鮮人特攻隊員のイメージの変容—韓国における『特攻』の受け入れがたさ」(福岡良明・山口誠編, 『知覧』の誕生—特攻の記憶はいかに創られてきたのか』, 柏書房) 241-282頁	2015.6
	論文(単著)	「日本型排外主義の特徴と拡大に関する小考」(『日本文化研究』59巻, 東アジア日本学会) 36-52頁	2016.3
	研究発表等(単独)	「現代日本の排外主義運動」(現代日本社会研究会月例研究会, 於:世明大学, 韓国)	2015.8

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
権 学俊	研究発表等 (単独)	「近現代日本社会における対韓国認識」(韓国研究財団研究会, 於: 堤川市立図書館, 韓国)	2015.11
	研究発表等 (単独)	「戦後国民体育大会の歴史の変遷と政治性」(京都自由大学研究会, 於: 京都自由大学)	2016. 1
黒田 学	著書(編著)	『ロシアの障害児教育・インクルーシブ教育』(クリエイツかもがわ) 3-6, 67-112頁	2015. 4
	著書(編著)	『ヨーロッパのインクルーシブ教育と福祉の課題』(クリエイツかもがわ) 全160頁	2016. 3
	著書(編著)	『スペイン語圏のインクルーシブ教育と福祉の課題』(クリエイツかもがわ) 全176頁	2016. 3
	著書(共編著)	『キーワードブック 特別支援教育』(玉村公二彦・清水貞夫・向井啓二編, クリエイツかもがわ) 26-29, 150-151, 216-219, 236-241頁	2015. 4
	論文(単著)	“UN Convention on the Rights of Persons with Disabilities and the Trend of Inclusive Education in Japan” (Journal of Science, Hanoi University of Education, vol.60/No.6BC) pp.16-21.	2015. 8
	論文(単著)	「ベトナム戦争とアウシュヴィッツ収容所から平和を考える」(『人間発達研究所通信』31巻2号, 人間発達研究所) 1-6頁	2015.12
	その他(単著)	「キューバ共和国(1)・海外の特別支援教育 第15回」(『特別支援教育研究』2015/06号, 全日本特別支援教育研究連盟) 29頁	2015. 6
	その他(単著)	「キューバ共和国(2)・海外の特別支援教育 第16回」(『特別支援教育研究』2015/07号, 全日本特別支援教育研究連盟) 29頁	2015. 7
	研究発表等 (単独)	「日本における障害者雇用の実際」(第7回モスクワ市国際会議「平等権と機会均等」, 於: ロシア連邦 モスクワ市)	2015. 4
	研究発表等 (単独)	「特別な教育的ニーズをもつ子どもの教育と社会開発に関する比較研究—イタリアを事例として—」(国際会議「ベトナムのインクルーシブ教育の質—現状と解決すべき課題」, 於: ハノイ師範大学)	2015. 8
その他 (同会・パリスト等)	「国際動向から見た課題と展望, シンポジウム『インクルーシブ教育のための通常教育改革』」(日本特別ニーズ教育学会中間集会, 於: 宇都宮大学)	2015. 6	
その他 (同会・パリスト等)	「チリ共和国における障害児教育・インクルーシブ教育の現状と課題」(バユス・ユイス, 平沼博将, 日本特別ニーズ教育学会第21回研究大会, 於: 京都教育大学)	2015.10	
小泉 秀昭	著書(分担執筆)	「世界的スポーツイベントにおける広告効果」(浪田陽子・柳澤伸司・福岡良明編著, 『メディア・リテラシーの諸相: 表象・システム・ジャーナリズム』, ミネルヴァ書房) 281-305頁	2016. 3
斎藤 真緒	著書(分担執筆)	「『ケアする』—ケアはジェンダーから自由になれるか?」(伊藤公雄・牟田和恵編, 『ジェンダーで学ぶ社会学(全訂新版)』, 世界思想社) 234-247頁	2015.10
	論文(単著)	「家族介護とジェンダー平等をめぐる今日的課題—男性介護者が問いかけるもの」(『日本労働研究雑誌』658号) 35-46頁	2015. 5
	研究発表等 (単独)	“Male carers in Japan: Difficulties and the need for gender sensitive support programs” (6th International Carers Conference, 於: Gothenburg, Sweden)	2015. 9
坂田 謙司	著書(分担執筆)	「電話リテラシーの社会史—電話のマナー教育は, 何を伝えたのか?—」(浪田陽子・柳澤伸司・福岡良明編著, 『メディア・リテラシーの諸相: 表象・システム・ジャーナリズム』, ミネルヴァ書房) 228-257頁	2016. 3

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
坂本 利子	著書(単著)	『ナディン・ゴードイマが描いた南アフリカ社会—人種, ジェンダー, セクシュアリティが交差する国家と家族のポリティクス』(第三書館) 全296頁	2016.3
	論文(単著)	「南アフリカの民主化過程における 女性運動と市民社会(上)」(『立命館産業社会論集』51巻1号) 255-271頁	2015.6
	論文(単著)	「南アフリカの民主化過程における 女性運動と市民社会(下)」(『立命館産業社会論集』51巻2号) 57-71頁	2015.9
	研究発表等 (単独)	“South Africa’s Transition to Democracy in Nadine Gordimer’s <i>No Time Like The Present</i> ” (African Literature Association 41st Annual Conference, 於: University of Bayreuth, Germany)	2015.6
	研究発表等 (共同)	“Cross-cultural peer learning on campus: Lessons from Australia and Japan” (Miki Horie, Yukako Yonezawa, European Association of International Education, Annual Conference, 於: Glasgow, Scotland)	2015.9
研究発表等 (共同)	“Inter-cultural co-learning: Challenges in the Japanese context” (堀江未来・米澤由香子, 東北大学国際共修プロジェクト研究会, 於: 東北大学)	2016.3	
崎山 治男	書評(単著)	「立岩真也著『自閉症連続体の時代』」(『社会学評論』66巻1号, 日本社会学会) 150-152頁	2015.6
櫻井 純理	著書(共編著)	『労働社会の変容と格差・排除—平等と包摂をめざして』(江口友朗・吉田誠編著, ミネルヴァ書房) 全249頁	2015.12
	その他 (同会・バリス等)	「生活困窮者支援の取り組みに求められること—大阪府内自治体の調査をふまえて—」(第3回大分大学福祉シンポジウム『働くことに困難を抱える人々への支援を考える—生活困窮者支援制度と就労支援—』, 於: 大分大学)	2016.2
櫻谷真理子	論文(単著)	「個を大切にできるデンマークの保育に学ぶ」(『立命館産業社会論集』51巻1号) 67-80頁	2015.6
	論文(単著)	「今日の子育て支援の課題」(『月刊 教育と医学』63巻9号, 慶應義塾大学出版会) 72-78頁	2015.8
	研究発表等 (単独)	「デンマークの保育理念・実践課題の検討」(日本保育学会第68回大会, 於: 相山女学園大学)	2015.5
笹野恵理子	論文(単著)	「中学生の学校音楽カリキュラム経験に関する予備的研究—質問紙調査の分析を通して—」(『関西楽理研究』32巻, 関西楽理研究会) 53-70頁	2015.11
	論文(共著)	「海外のカリキュラム・学力評価」(中島卓郎他, 『学校音楽教育研究』20巻, 日本学校音楽教育実践学会) 126-134頁	2016.3
	研究発表等 (単独)	「学校音楽を『教える』ことと『学ぶ』ことの諸相(4)—教師は学校音楽をどう経験するか—」(日本音楽教育学会第46回大会, 於: 宮崎県 シーガイアコンベンションセンター)	2015.10
	研究発表等 (単独)	「学校音楽教育におけるカリキュラム経験に関する研究」(第2回近現代教育実践史研究会, 於: 和歌山大学)	2015.11
	研究発表等 (単独)	「学校音楽教育における潜在的カリキュラムに関する研究—教師へのインタビュー調査をもとに—」(第3回近現代教師史研究会, 於: 東京ガーデンパレス)	2016.3
佐藤 詩恵	研究発表等 (単独)	“On the pragmatic functions of “I think” as a final particle in spoken English: Cross-linguistic evidence from Japanese” (The 14th International Pragmatics Conference, University of Antwerp, Belgium)	2015.7

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
佐藤 春吉	論文(単著)	「批判的实在論による社会科学論の基本特徴—バース・ダナーマーク他著『社会を説明する』に準拠して—」(『唯物論と現代』54号, 文理閣) 92-110頁	2015.11
	翻訳(単著)	バース・ダナーマーク著「批判的实在論の応用研究のためのガイドライン」(『立命館産業社会論集』51巻4号, 特集「批判的实在論研究」) 269-282頁	2016. 3
	その他(単著)	「産業社会論集『批判的实在論特集』編集にあたって」(『立命館産業社会論集』51巻4号, 特集「批判的实在論研究」) 83-91頁	2016. 3
鎮目 真人	著書(共編著)	『社会保障の公私ミックス再論』(松田亮三編著, ミネルヴァ書房) 51-71, 301-312頁	2016. 3
	論文(単著)	「年金制度改革における政治的言説, 新しい政策アイデアの役割—現代福祉国家論のリサーチフロンティアとしての一試論—」(『季刊社会保障研究』51巻3・4号, 国立社会保障・人口問題研究所) 318-336頁	2016. 2
	研究発表等(単独)	「年金改革における政治的言説, フレーミング, 新しい政策アイデアの役割—プロスペクト理論に基づく不人気政策の理論—」(日本公共政策学会2015年度大会, 於: 京都府立大学)	2015. 6
下條 正純	論文(単著)	「ライトノベルにおける『だ』で終わる発話文とキャラクター描写の関わり」(『立命館産業社会論集』51巻2号) 177-189頁	2015. 9
杉本通百則	著書(分担執筆)	「ドイツ経済のグリーン化と EU 環境規制の新展開—環境保全と経済発展はいかに両立しうるか—」(朝日吉太郎編著, 『欧州グローバル化の新ステージ』, 文理閣) 250-278頁	2015. 4
	論文(単著)	「建設アスベスト訴訟をめぐる国の論理と倫理」(『日本の科学者』50巻4号, 日本科学者会議) 44-49頁	2015. 4
	書評(単著)	「書評 宮本憲一著『戦後日本公害史論』」(『総合社会福祉研究』45号, 総合社会福祉研究所) 117-122頁	2015. 4
住家 正芳	著書(分担執筆)	『現代社会理論の変貌: せめぎ合う公共圏』(日暮雅夫・尾場瀬一郎・市井吉興編著, ミネルヴァ書房) 149-172頁	2016. 1
	論文(単著)	“Nationalism, Religion, and Social Darwinism: Nation and Religion in the Works of Katō Genchi and Liang Qichao” (Religious Studies in Japan 3巻, Japanese Association for Religious Studies) 21-39頁	2016. 1
高嶋 正晴	論文(共著)	「大学の地域連携プロジェクトにみる多自然地域の魅力づくりとシニア活用—地域(ローカル)共通価値の創出(CSV)とプレミアム世代の活躍に向けて—」(三宅康成・内平隆之他, 『研究調査平成27年度末報告書: 人口減少下の多自然地域の魅力づくりの研究—シニア世代を活用した新たなビジネスの展開—』, 公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構 研究調査本部)	2016. 3
竹内 謙彰	著書(分担執筆)	「子どもの遊ぶ権利と原発事故」(村本邦子・中村正・荒木穂積編著, 『臨地対人援助学—東日本大震災と復興の物語—』, 晃洋書房) 110-113頁	2015. 8
	論文(単著)	「高機能自閉症スペクトラム障害を持つ若者の発達課題」(『立命館産業社会論集』51巻1号) 29-40頁	2015. 6
	論文(単著)	「障害を捉える視点とジェンダー」(『心理科学』36巻2号, 心理科学研究会) 9-18頁	2015.12

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
竹内 謙彰	論文(共著)	“A new approach for assessment of child development in Vietnam: Developing tools as developmental checklist for children” (Nguyen Thi Hoang Yen 他, 『立命館産業社会論集』51巻1号) 55-56頁	2015.6
	論文(共著)	「青年期前期における自閉症スペクトラム児に対する療育プログラム開発—自主性と協同性をはぐくむ活動の工夫—」(鏡原崇史他, 『立命館人間科学研究』32号) 131-142頁	2015.8
	論文(共著)	「学童期後期における自閉症スペクトラム児に対する療育プログラム開発—スタッフの役割の検討—」(荒木九理子他, 『立命館人間科学研究』32号) 69-84頁	2015.8
竹濱 朝美	論文(単著)	「ドイツにおける風力・太陽光電力の上流送電, 系統連系の制度」(『風力エネルギー』39巻2号, 日本風力エネルギー学会) 161-173頁	2015.8
	論文(単著)	「ドイツ高圧・中圧系統における風力電力の上流送電, 無効電力供給にかかる接続規則」(『第37回風力エネルギー利用シンポジウム』発表原稿集, 日本風力エネルギー学会) 443-446頁	2015.11
	研究発表等 (単独)	「風力・太陽光発電による配電網における逆潮流をめぐる系統運用, 日独比較」(日本環境学会 第41回研究発表会, 於: 龍谷大学)	2015.6
	研究発表等 (単独)	“Reverse power flow from high voltage grids to extra-high voltage grids, bi-directional grid operation in Germany: Policy implications for wind and PV energy integration in Japan” (Japanese-German Workshop on Renewable Energies, Tokyo)	2016.3
田村 和宏	著書(共著)	『重症心身障害児者等支援者育成研修テキスト』(末光茂他, 厚生労働省) 139-151, 174-192頁	2016.3
	論文(単著)	「成人期障害者の実践研究の方法論」(『障害者問題研究』43巻3号, 全国障害者問題研究会) 46-51頁	2015.11
	論文(共著)	『重症心身障害児者等コーディネーター育成研修プログラムと普及に関する研究』(末光茂他, 厚労科研費研究) 27-35頁	2016.3
筒井 淳也	著書(単著)	『仕事と家族』(中公新書) 全209頁	2015.5
	著書(共著)	「因果推論の限界についての社会学的考察」(平子友長・橋本直人・佐山圭司・鈴木宗徳・景井充編著, 『危機に対峙する思考』, 梓出版社) 15-34頁	2016.1
	著書(共編著)	『計量社会学入門: 社会をデータでよむ』(神林博史・長松奈美江・渡邊大輔・藤原翔編著, 世界思想社) 2-13, 118-130頁	2015.12
	著書(共編著)	「ポスト工業社会の課題と東アジア」(グワンヨン・シン・柴田悠編著, 『ポスト工業社会における東アジアの課題』, ミネルヴァ書房) 2-22頁	2016.3
	著書(分担執筆)	「家族: 家族形成にはどのような格差があるのか」(山田昌弘・小林盾編, 『データで読む現代社会: ライフスタイルとライフコース』, 新曜社) 111-132頁	2015.6
	著書(分担執筆)	「私事化とマス・メディア: 国際比較データを使った試論」(浪田陽子・柳澤伸司・福岡良明編著, 『メディア・リテラシーの諸相—表象・システム・ジャーナリズム』, ミネルヴァ書房) 306-327頁	2016.3
	論文(単著)	「高齢者の主観的健康状態に関するパネルデータ分析: 配偶状態の影響の検討」(『立命館産業社会論集』51巻1号) 297-304頁	2015.6
	論文(単著)	「社会的分断を超えて」(『連合総研DIO』311巻, 連合総合生活開発研究所)	2016.1

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
筒井 淳也	論文(共著)	“Individual and contextual factors associated with community health workers’ performance in Nyanza Province, Kenya: a multilevel analysis” (Yoshito Kawakatsu 他, BMC Health Services Research 15巻442号) 1-10頁	2015.10
	論文(共著)	“The High Cost of Missing a Boat under the Japanese Recruitment Practices: Timing of Regular and Non-regular Employment after School Completion in Japan” (Eric Fong, Research in Social Stratification and Mobility 42巻) 1-10頁	2015.12
	論文(共著)	「家事分担研究の課題：公平の視点から効果の視点へ」(竹内麻貴共著, 『季刊家計経済研究』109巻, 家計経済研究所) 13-25頁	2016. 1
	論文(共著)	“Combining Egalitarian Working Lives with Traditional Attitudes: Gender Role Attitudes in Taiwan, Japan, and Korea” (Maki Takeuchi, International Journal of Japanese Sociology 25巻1号) 100-116頁	2016. 3
	書評(単著)	「脱構築するための社会理論 (A. ギデンズ『社会の構成』書評)」(『現代社会学理論研究』10号, 日本社会学理論学会) 154-158頁	2016. 3
	研究発表等(単独)	「公共性と親密性：再編の方向性」(『リスク社会におけるメディアの発達と公共性の構造転換』研究会, 於：学習院大学)	2015. 7
	研究発表等(単独)	「リベラリズムの先にあるもの：『仕事と家族』での議論を受けて」(脱貧困化研究会, 於：立命館大学)	2015. 8
	研究発表等(単独)	「出産研究の視点から：出生力研究の課題」(数理社会学会第60回大会：シンポジウム『社会階層と家族』, 於：大阪経済大学)	2015. 8
	研究発表等(単独)	「真の「共働き社会」に向けて：国際比較から見えてくる課題」(内閣府税制調査会, 於：財務省)	2015. 9
	研究発表等(単独)	「これからの働き方」(第28回連合総研フォーラム, 於：JA 共済コンファレンスホール(永田町))	2015.10
	研究発表等(単独)	“Dual-earner Couple Society as a Solution?: Options for East Asian Societies with Lowest-Low Fertility” (East Asian Civil Society Dialogue on the Sphere of Intimacy: 4th Hokkaido Dialogue)	2016. 2
	研究発表等(共同)	“Breakaway from the Choice between Work and Marriage?: A Panel Data Analysis of Willingness to Marry in Japanese Women” (Masaaki Mizuochi, International Conference: Education and Reproduction in Low Fertility Settings)	2015.12
	その他(単著)	「出生率はなぜ回復しないのか」(『文藝春秋オピニオン2016年の論点100』, 文藝春秋) 200-202頁	2016. 1
その他(単著)	「有償労働と無償労働の配分変更はいかにして可能か」(『Business Labor Trend』2巻) 32頁	2016. 2	
津止 正敏	著書(編著)	『ケアメン・コミュニティのマネジメント』(立命館大学人間科学研究所)	2016. 2
	著書(分担執筆)	「仕事と介護の両立支援現場から考える—企業に求められる支援の在り方—」(労務行政研究所編, 『これから始める仕事と介護の両立支援』, 労務行政) 32-47頁	2015. 6
	論文(単著)	「男性介護者への包括的支援の論理と根拠—暮らしと介護, 仕事と介護の視点から—」(『社会福祉研究』第122号, 鉄道弘済会) 47-56頁	2015. 4
	論文(単著)	「男性介護者の仕事と介護を巡る実態と論点—介護者モデルの変容と新しい生き方モデル—」(『生活経済政策』223号, 生活経済政策研究所) 12-17頁	2015. 8
	論文(単著)	「急増する男性介護者の悩み」(『女も男も』126号, 労働教育センター) 34-40頁	2015.12

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
富永 京子	著書(共著)	『奇妙なナショナリズム—排外主義に抗して』(山崎望編, 岩波書店) 113-138頁	2015. 9
	著書(共著)	『サミット・プロテスト—グローバル化時代の社会運動』(野宮大志郎・西城戸誠編, 新泉社) 108-134頁	2016. 2
	論文(単著)	“Young Radicals in 2010s: From the relationship between young and elderly protesters” (East Asian Civil Society Dialogue on the Sphere of Intimacy: 4th Hokkaido Dialogue) pp.17-26.	2016. 2
	論文(共著)	“Is an Alternative Deliberation Space?: The Anti-Nuclear Movement and ICT Communication after 3.11 Disaster” (with Takanori Tamura, ACCS 2015 Conference Proceedings) pp.307-319.	2015. 7
	研究発表等 (単独)	「社会運動のサブカルチャー化—『2008年 G8 サミット抗議行動』での経験に焦点を当てて」(第3回サテライト研究会, 於: 立命館大学梅田キャンパス)	2015. 6
	研究発表等 (単独)	「食とグローバル化の社会学—ポスト “マクドナルド化” 時代のフードスケープ」(関西学院大学先端社会研究所 2015年度第3回先端研セミナー, 於: 関西学院大学)	2015. 7
	研究発表等 (単独)	「社会運動のサブカルチャー的側面—個人化・流動化時代の『居場所』を貫く規範とは」(第102回 SPSN 研究会, 於: 帝京大学)	2015. 8
	研究発表等 (単独)	“Alternative World is not Equal: What Factors Create the Hierarchy among Activists?” (12th Conference of the European Sociological Association, Prague Czech Republic)	2015. 8
	研究発表等 (単独)	“Young Radicals in 2010s: From the relationship between young and elderly protesters” (East Asian Civil Society Dialogue on the Sphere of Intimacy: 4th Hokkaido Dialogue, Seoul, Korea)	2016. 2
	研究発表等 (単独)	“Young Radicals in 2010s: The Contemporary Counter-Culture of Young Protesters” (The Workshop of National Taipei University Department of Sociology, Taiwan)	2016. 3
	研究発表等 (単独)	“Everyday Life and Politics in Youth: The Japanese Case in 2000s” (国立東華大学社会学系專題演講, Taiwan)	2016. 3
	研究発表等 (共同)	“Alternative Deliberation Space is Possible?: Anti-Nuclear Movement and ICT Communication after 3.11 Disaster” (with Takanori Tamura, ACAS/ACCS 2015 Conference, Kobe, Japan)	2015. 5
	研究発表等 (共同)	“Leftist Magazines and Social Movements: A Study of the Networks between Activists Writers/Editors” (with Yusuke Kanazawa, Sunbelt XXXV <International Sunbelt Social Network Conference> Brighton, UK)	2015. 6
そ の 他 (同会・バネ社等)	「10年代社会におけるアソシエーションの可能性」(第88回日本社会学会大会, 於: 早稲田大学)	2015. 9	
仲井 邦佳	論文(単著)	「大学の単位制度と学年暦—『1単位=45時間』と『1科目=1350分説(15週論)』—」(『立命館産業社会論集』51巻4号) 1-11頁	2016. 3
	その他(単著)	「スペイン語講座 (21) 線過去の用法について (2)」(『Acueducto』第21号) 28頁	2015. 5
	その他(単著)	「スペイン語講座 (22) 母音変化動詞の活用について (1)」(『Acueducto』第22号) 32頁	2015. 8
	その他(単著)	「スペイン語講座 (23) 母音変化動詞の活用について (2)」(『Acueducto』第23号) 32頁	2015.11

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
仲井 邦佳	その他(単著)	「スペイン語講座 (24) 連結の接続詞 y 等の表現について」(『Acueducto』第24号) 28頁	2016. 2
中井 美樹	訳書(共訳)	『スクリプナー思想史大事典 第8巻』(文化資本、スクリプナー思想史大事典翻訳編集委員会訳、丸善出版株式会社) 3113-3115頁	2016. 1
	研究発表等 (単独)	“Social Differentiation of Cultural Taste and Practice in Contemporary Japan: Nonhierarchical Asymmetric Cluster Analysis” (IFCS2015, Bologna, Italy)	2015. 7
	研究発表等 (共同)	“A Random Matrix Theory study of Covariance Matrices of Continuous and Categorical Variables” (Vernizzi, G, IFCS2015, Bologna, Italy)	2015. 7
長澤 克重	著書(分担執筆)	『メディア・リテラシーの諸相—表象・システム・ジャーナリズム—』(浪田陽子・柳澤伸司・福間良明編著、ミネルヴァ書房) 85-105頁	2016. 3
中西 純司	論文(単著)	「『スポーツ価値』のダイナミクスとスポーツ政策の課題」(平成27年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告『新たなスポーツ価値意識の多面的な評価指標開発—第2報—』, 日本体育協会) 48-61頁	2016. 3
	研究発表等 (単独)	「スポーツ組織における『マーケティング力』測定指標の開発研究(Ⅰ)—仮説的概念モデルの構築に焦点をあてて—」(日本体育学会第66回大会, 於: 国士舘大学世田谷キャンパス)	2015. 8
中西 典子	研究発表等 (単独)	「英国連立政権下でのローカリズム政策の動向」(地域創成研究会, 於: 九州大学)	2015. 5
中西 仁	論文(単著)	「地域に学ぶ小学校教員養成課程の学生たち その2—地藏盆プロジェクトからの地域インターンシップ構想—」(『立命館教職教育研究』3号) 85-94頁	2016. 3
	研究発表等 (単独)	「中世とはどんな時代か? ~小ネタで生徒と読み解こう~」(第17回学びあう教材・授業づくり研究会〈旧近現代史教材・授業づくり研究会〉, 於: 大阪府教育会館)	2015. 7
	その他(単著)	「防災・減災対策 社会科授業にできること」(『社会科教育』683号, 明治図書) 96-97頁	2016. 3
永橋 爲介	著書(監修)	『第2期京都市市民参加推進計画 改定にあたっての提言書』(京都市市民参加推進フォーラム編, 京都市総合企画局総合政策室市民協働室)	2015.11
仲間 裕子	論文(単著)	“Aesthetics and Landscape: Crystallization of Nature Images” (Krystyna Wilkoszewska, <i>Aesthetics in Action</i> , International Yearbook of Aesthetics, vol. 18, 2014) pp.327-337.	2015
	論文(単著)	“The aesthetics of nature in Japanese art and its historical development” (trans. by Hu Ying in Chinese, <i>Journal of Zhengzhou University</i> , vol.48, no.4) pp.98-101.	2015. 7
	研究発表等 (単独)	“Art and Nature: An Aesthetic View on Value” (International Philosophical Forum on Values, Beijing Normal University)	2015. 6
	研究発表等 (単独)	“Transformation and Foreignness: Japanese Ink Painting and Its Expanded Field” (Beijing Forum 2015, Peking University)	2015.11
	研究発表等 (単独)	“The Aesthetics of Japanese Art in Historical Development” (University of Bologna)	2016. 3

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
中村 正	著書(共著)	『関係性の社会病理』(高原正興・矢島正見編著, 学文社) 104-126頁	2016.3
	著書(共編著)	『臨床の対人援助学』(村本邦子・荒木穂積編著, 晃洋書房) 1-25, 191-198頁	2015.8
	著書(分担執筆)	『現代法律実務の諸問題』(日本弁護士連合会編, 第一法規) 513-548頁	2015.10
	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (9) 日常生活」(『対人援助学マガジン』6巻1号, 対人援助学会) 18-26頁	2015.6
	論文(単著)	「DVのある家族への支援とは」(『保健の科学』57巻6号, 杏林書院) 361-387頁	2015.6
	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (10) サイレンシング (沈黙化作用)」(『対人援助学マガジン』6巻2号, 対人援助学会) 20-29頁	2015.9
	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (11) マトリックス—その暴力は偶然ではない」(『対人援助学マガジン』6巻3号, 対人援助学会) 19-28頁	2015.12
	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (12) ブランド・ハプスタンス—計画された偶発性」(『対人援助学マガジン』6巻4号, 対人援助学会) 20-30頁	2016.3
	論文(単著)	「社会問題研究における社会構築主義と批判的实在論」(『立命館産業社会論集』51巻4号) 191-211頁	2016.3
	論文(単著)	「暴力臨床論の展開のために—暴力の実践を導く暗黙理論への着目」(『立命館文学』646号) 100-114頁	2016.3
	研究発表等 (単独)	“What we need to know about offender therapy : From the context of family centered society” (The XXXVIIth International Congress on Law and Mental Health, Sigmund Freud University, Vienna)	2015.7
	研究発表等 (単独)	“Recent Movement of therapeutic justice in Japan” (The 4th International AOTEARA, Conference on Therapeutic Jurisprudence, University of Auckland, New Zealand)	2015.9
	研究発表等 (共同)	「男性性の傷つきに敏感なジェンダー臨床論のために (その4) 一男たちの反応 / 表出困難性についての考察—」(國友万裕, 第7回対人援助学会, 於: 立命館大学)	2015.10
	その他(単著)	「DV加害者の脱暴力への臨床実践」(『日本医事新報』4771号, 日本医事新報社) 51頁	2015.10
そ の 他 (司会・パネリスト等)	「対人援助学の課題としての男性問題」(第7回対人援助学会, 於: 立命館大学)	2015.11	
浪田 陽子	著書(共編著)	『メディア・リテラシーの諸相: 表象・システム・ジャーナリズム』(柳澤伸司・福間良明共編著, ミネルヴァ書房) 2-32頁	2016.3
根津 朝彦	著書(分担執筆)	『メディア・リテラシーの諸相: 表象・システム・ジャーナリズム』(浪田陽子・福間良明・柳澤伸司編著, ミネルヴァ書房) 61-84頁	2016.3
	そ の 他 (司会・パネリスト等)	「『不偏不党』小史からの考察」(日本マス・コミュニケーション学会春季研究発表会シンポジウム, 於: 同志社大学)	2015.6
盧 載玉	論文(共著)	「日中韓三か国における漢字教育の現状と課題」(文 楚雄・伊藤隆司, 『立命館産業社会論集』51巻4号) 13-34頁	2016.3
野田 正人	著書(共著)	『現代生徒指導論』(日本生徒指導学会編著, 学事出版) 150-153頁	2015.9
	著書(共著)	『はじめて学ぶ生徒指導・教育相談』(本間友巳・内田利広編著, 金子書房) 122-133頁	2016.3

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
野田 正人	論文(単著)	「わが国のスクールソーシャルワーク事業の発展史—なぜ2008年にこの事業は開始したのか—」(日本学校ソーシャルワーク学会10周年記念誌『学校ソーシャルワーク実践の動向と今後の展望』, 日本学校ソーシャルワーク学会) 6-9頁	2015.6
	論文(単著)	「非行と学校ソーシャルワーク」日本学校ソーシャルワーク学会10周年記念誌『学校ソーシャルワーク実践の動向と今後の展望』, 日本学校ソーシャルワーク学会) 19-22頁	2015.6
	論文(単著)	「【実践との対話】沖縄の少年非行対応と司法福祉に於ける実践 宇都宮報告『少年鑑別所法における新たな取り組み』との対話」(『生徒指導研究』32巻, 日本生活指導学会) 41-44頁	2015.8
	論文(単著)	「児童虐待への支援の基本」(『児童心理』69巻15号, 金子書房) 106-110頁	2015.10
	論文(単著)	「児童自立支援施設の今日的課題」(『犯罪社会学研究』40号, 日本犯罪社会学会) 57-67頁	2015.10
	研究発表等(単独)	「子どもの虐待 思春期への影響」(第34回日本思春期学会総会・学術集会, 於: 滋賀県立県民交流センター)	2015.8
	研究発表等(単独)	「社会的養護の課題と方向性 青少年の現状と自立へ向けた支援の在り方を問う」(全国自立援助ホーム協議会第22回滋賀大会基調講演, 於: ホテルポストンプラザ草津)	2015.10
	その他(同会・パナリスト等)	「児童生徒のいじめや校内暴力への対応を考える」(日本学校ソーシャルワーク学会第10回福岡大会, 於: 福岡国際会議場)	2015.7
その他(同会・パナリスト等)	「関係専門機関との有効な連携について」(全国自立援助ホーム協議会第22回滋賀大会, 於: ホテルポストンプラザ草津)	2015.10	
長谷川千春	著書(分担執筆)	「日本における医療のセーフティネットは擦り切れているか—雇用と健康保険, そして生活保護—」(松田亮三・鎮目真人編著, 『社会保障の公私ミックス再論—多様化する私的領域の役割と可能性—』, ミネルヴァ書房) 171-196	2016.3
	論文(単著)	“Is the safety net for healthcare in Japan fraying?: Employment, health insurance, and public assistance” (『立命館産業社会論集』51巻3号) 5-24頁	2015.12
原尻 英樹	著書(共編著)	『東シナ海域における朝鮮半島と日本列島: その基層文化と人々の生活』(金明美, かんよう出版) 29-183, 369-371頁	2015.8
樋口 耕一	論文(共著)	「震災後の高校生を脱原発へと向かわせるもの—自由回答データの計量テキスト分析から—」(友枝敏雄編著, 『リスク社会を生きる若者たち—高校生の意識調査から—』, 大阪大学出版会) 186-203頁	2015.4
	論文(共著)	「教育心理学研究のためのテキストデータの計量分析」(星野崇宏・荘島宏二郎・富田英司, 『教育心理学年報』55巻, 日本教育心理学会) 313-321頁	2016.3
	その他(単著)	「フリーソフトウェア『KH Coder』による計量テキスト分析—手軽なマウス操作による分析からプラグイン作成まで」(『研究報告人文科学とコンピュータ』2015-CH-107巻9号, 情報処理学会) 1-2頁	2015.8
日暮 雅夫	著書(共著)	「労働・承認・闘争—A.ホネットの『労働と承認』論」(田中拓道編, 『承認—社会哲学と社会政策の対話』, 法政大学出版社) 131-156頁	2016.3
	著書(共編著)	『現代社会理論の変貌—せめぎ合う公共圏』(尾場瀬一郎・市井吉興編著, ミネルヴァ書房) 1-7, 15-36, 165-179頁	2016.1
	訳書(共訳)	アクセル・ホネット著『見えないこと』(宮本真也・水上英徳訳, 法政大学出版社) 7-33, 35-64頁	2015.5

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
日暮 雅夫	研究発表等 (単独)	“Axel Honneth’s Methodology of Normative Reconstruction and Criticism against Labour under Neoliberalism: Freedom’s Right and The I within We” (International Workshop Recognition Theory in East Asian Context, 於: Seoul, KOREA)	2016. 3
	研究発表等 (単独)	“Axel Honneth’s Critique of Neoliberalism” (“Critical Theory” Today: Axel Honneth’s Theory of Recognition, “International Scholar Lecture Series”, 於: Chung-Ang Institute of Sociology, Chung-Ang University, Seoul, Korea)	2016. 3
日高 勝之	著書(共著)	「三億円事件と学生運動家～二一世紀初頭の映画表象における「1968年」=〈政治の季節〉」(柳澤伸司・浪田陽子・福岡良明編, 『メディアリテラシーの諸相』, ミネルヴァ書房) 156-182頁	2016. 3
	研究発表等 (単独)	“Japanese Media after the Great East Japan Earthquake” (Keynote Lecture at The First SOAS’s Centre for Film Studies Postgraduate Conference, The University of London, UK,)	2015. 6
	研究発表等 (単独)	「コミュニケーションとジャーナリズム～擬似調停報道とシナジエの視点から～」(日本コミュニケーション学会第45回全国大会, 於: 南山大学)	2015. 6
	研究発表等 (単独)	“Politic, Emotion and the Past” (MeCCSA’s Politics, Emotion & Protest Workshop, Bournemouth University, UK)	2015. 7
	その他(単著)	「日高勝之著『昭和ノスタルジアとは何か 記憶とラディカル・デモクラシーのメディア学』書評に答えて」(『ソシオロジ』60巻1号) 117-121頁	2015. 6
平山真奈美	著書(分担執筆)	『最新英語学・言語学用語辞典』(中野弘三他編著, 開拓社)	2015.11
	研究発表等 (単独)	“(Non)incomplete neutralization in voiced obstruents in Japanese” (CRC-Sponsored Summer Phonetics/Phonology Workshop, University of Toronto)	2015. 6
	研究発表等 (単独)	“Complete and incomplete neutralizations between underlying and derived geminates in Japanese” (Geminate Consonants across the World <ICPhS 2015 satellite workshop>, SECC, UK)	2015. 8
	研究発表等 (単独)	“Some remarks on vowel devoicing and morphological boundaries in Japanese” (The Phonology-Morphology Circle of Korea Winter Conference 2015, Seoul, Korea)	2015.12
	研究発表等 (単独)	“Word-internal boundaries and high vowel devoicing in Japanese: A corpus study” (The 11th Phonology Festa, 於: 立命館大学朱雀キャンパス)	2016. 3
	研究発表等 (共同)	“The prosodic effects of VP and embedded CP boundaries in Japanese” (Hyun Kyung Hwang, 2015 Annual Meeting on Phonology, the University of British Columbia and Simon Fraser University)	2015.10
	研究発表等 (共同)	“Not all XPs affect prosody in Japanese” (Hyun Kyung Hwang, The 46th annual meeting of the North East Linguistics Society, Concordia University)	2015.10
	研究発表等 (共同)	“Some remarks on the prosody of Japanese complex phrases” (T. Pérez-Leroux, Intonation workshop 2016, University of Toronto)	2016. 2
福岡 良明	著書(単著)	『「聖戦」の残像: 知とメディアの歴史社会学』(人文書院) 全432頁	2015. 6
	著書(単著)	『「戦跡」の戦後史 せめぎあう遺構とモニュメント』(岩波書店) 全296頁	2015. 8
	著書(共編著)	『「知覧」の誕生 特攻の記憶はいかに創られてきたか』(山口誠編著, 柏書房) 5-27, 31-73頁	2015. 6

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
福間 良明	著書(共編著)	『メディア・リテラシーの諸相: 表象・システム・ジャーナリズム』(浪田陽子・柳澤伸司編著, ミネルヴァ書房) 132-155頁	2016. 3
	著書(分担執筆)	『『戦跡』の発明と『記憶』の創造: メディアと空間編成の政治学』(佐藤卓己編, 『岩波講座現代5 歴史のゆらぎと再編』, 岩波書店) 239-268頁	2015.11
	著書(分担執筆)	『『葦』『人生手帖』: 勤労青年が渴望した教養と人生雑誌』(佐藤卓己編, 『青年と雑誌の黄金時代』, 岩波書店) 37-81頁	2015.11
	論文(単著)	「遺構の発明と固有性の喪失 原爆ドームをめぐるメディアと空間の力学」(『思想』1096号, 岩波書店) 130-152頁	2015. 8
	論文(単著)	『『順法』への懐疑と戦争体験: 『カウンター・クライム』の思想』(『現代思想』臨時増刊号, 青土社) 2-11頁	2015.10
	論文(単著)	『『断絶』の風化と脱歴史化: メディア文化における『継承』の欲望』(『マス。コミュニケーション研究』88号, 日本マス・コミュニケーション学会) 55-74頁	2016. 1
	論文(単著)	広島・長崎と「記憶の場」のねじれ: 「被爆の痕跡」のポリティクス『立命館大学人文科学研究所紀要』(110号) 111-137頁	2016. 3
	研究発表等(単独)	『『戦争の記憶』を問う視角: 戦跡とメディアの力学』(第88回日本社会学会大会シンポジウム2 「戦争をめぐる社会学の可能性」, 於: 早稲田大学)	2015. 9
	研究発表等(単独)	「戦後広島と『記憶の場』のポリティクス: 原爆ドームと平和記念公園をめぐる言説変容」(東アジア史研究フォーラム国際学術会議, 於: 漢陽大学)	2015.11
	研究発表等(単独)	『『戦争の記憶』の変容とメディア文化の戦後—1960年代末の転換—』(同時代史学会第18回関西研究会, 於: 関西学院大学)	2015.12
研究発表等(単独)	「断絶」の風化と脱歴史化: 特攻映画と戦跡観光の戦後史 (Conference: Visualization of Japanese History, at Oslo University)	2016. 3	
イアン・ホザック	研究発表等(単独)	“Exploring Japanese English Teachers' Beliefs about their Role as Citizenship Educators” (11th International CitizED Conference, Nanyang Technological University, Singapore.)	2015. 6
前田 信彦	論文(単著)	「キャリア教育とスチューデント・ネットワーク—立命館大学の事例—」(『大学時報』366号, 日本私立大学連盟) 52-57頁	2016. 1
	研究発表等(単独)	“Career Decidedness of University Graduates and their Effect on Initial Job Attainment” (International Association for Educational and Vocational guidance (IAEVG), Tsukuba, Japan)	2015. 9
増田 幸子	著書(分担執筆)	「終戦記念番組としてのテレビドラマ」(浪田陽子・柳澤伸司・福間良明編著, 『メディア・リテラシーの諸相: 表象・システム・ジャーナリズム』, ミネルヴァ書房) 168-181頁	2016. 3
	研究発表等(単独)	「NHK朝の連続テレビ小説における『戦争』のまなざし」(韓国日本文化学会 第49回 国際学術大会, 於: 清州大学校, 韓国)	2015.10
松島 剛史	研究発表等(単独)	「ラグビー日本代表とネイションの二重性: スポーツ・ナショナリズムの理解に向けて」(日本スポーツ社会学会第25大会, 於: 一橋大学)	2016. 3
松田 亮三	著書(共編著)	『対人支援における〈学=実〉連携の展望』(稲葉光行編著, 立命館大学人間科学研究所) 全200頁	2015.11
	著書(共編著)	『社会保障の公私ミックス再論—多様化する私的領域の役割と可能性』(鎮目真人編著, ミネルヴァ書房) 1-14, 72-108, 255-257頁	2016. 3

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
松田 亮三	著書(共編著)	『「支える医療」共同研究プロジェクト報告書』(石橋修・福田茉莉, 「支える医療」共同プロジェクト) 4-9, 37-41頁	2016.3
	論文(単著)	『「社会保障・税一体改革」後の医療政策』(『大原社会問題研究所雑誌』685号, 法政大学大原社会問題研究所) 5-17頁	2015.11
	論文(単著)	「市場とネットワークによる医療供給ガバナンス: 1970年代の日本医療機構の考察」(『日本医療経済学会会報』32巻1号, 日本医療経済学会) 17-27頁	2016.3
	研究ノート (単著)	「批判的実在論を用いた社会疫学研究— Eastwood らの研究を中心に—」(『立命館産業社会論集』51巻4号) 213-223頁	2016.3
	その他(単著)	「編集長としての4年間を振り返って」(『立命館人間科学研究』32巻48号) 1-2頁	2015.8
	その他(単著)	“Social Health Insurance as a Health Safety Net in Japan, the US, and France: An introduction” (Ritsumeikan Social Sciences Review 51巻3号) 1-3頁	2015.12
	その他(共著)	「イングランドの公衆衛生改革: 英国行政官・研究者の保健所視察を受けて」(山田全啓・中原俊隆, 『医学のあゆみ』253巻2号, 医歯薬出版株式会社) 203-205頁	2015.4
	研究発表等 (単独)	「福祉国家における医療機構類型論の新たな展開」(社会政策学会第130回研究大会・テーマ別分科会 社会政策としての医療政策: 新たな研究を展望する [保健医療福祉部会], 於: お茶の水女子大学)	2015.6
	研究発表等 (単独)	『「社会保障・税一体改革」後の医療政策』(社会政策学会第130回研究大会・テーマ別分科会 社会保障・税一体改革とその後 [社会保障部会], 於: お茶の水女子大学)	2015.6
	研究発表等 (単独)	“Re-knotting health care governance under financial pressure: a case study on evolving decentralized mechanisms of Japanese health system” (The 2nd International Conference on Public Policy, Catholic University of Sacro Cuore, Milan)	2015.7
	研究発表等 (単独)	「米国の地域健康・医療センター ～その制度的枠組み～」(日本医療経済学会第18回研究例会, 於: キャンパスプラザ京都)	2015.8
	研究発表等 (単独)	「米国の地域健康・医療センター —セーフティネット供給者としての役割に焦点をあてて—」(第5回 健康と医療の人文社会科学研究会, 於: 立命館大学)	2015.8
	研究発表等 (単独)	“Linking and persuading roles of policy ideas: Development of sub-national governance of health and long-term care in Japan” (2015 Annual ESPAnet Conference: THE LOST AND THE NEW WORLDS OF WELFARE, University of Southern Denmark, Odense, Denmark)	2015.9
	研究発表等 (単独)	“Caring for old people in Japan” (Vieillir au japon: soins et accompagnement des personnes agees. Une perspective comparative franco-japonaise: Comment le Japon gere-t-il le probleme du vieillissement rapide de sa population ?)	2015.11
	研究発表等 (単独)	「日本医療経済学会での医療政策研究の展開を振り返る」(日本医療経済学会第39回学術研究大会, 於: 大阪国際会議場)	2015.12
	研究発表等 (単独)	「政策分析という学術・技法—医療政策を中心に」(日本医療経済学会第39回学術研究大会, 於: 大阪国際会議場)	2015.12
	研究発表等 (共同)	『「支える医療」共同研究プロジェクト調査報告』(インクルーシブ医療総括研究会「インクルーシブな医療に向けて—実践・研究の課題を考える—」, 於: 立命館大学)	2016.3

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
丸山 里美	著書(分担執筆)	「女性ホームレスの問題から—女性の貧困問題の構造」(小杉礼子・宮本みち子編、『下層化する女性たち—労働と家庭からの排除と貧困』、勁草書房) 113-139頁	2015. 8
	論文(単著)	「女性の貧困とメンタルヘルス」(『こころの健康シリーズVI：格差社会とメンタルヘルス』11巻、日本精神衛生会)	2015.12
	その他(単著)	「第5回若手奨励賞 受賞の言葉」(『日本都市社会学会年報』33、日本都市社会学会) 198頁	2015. 9
	その他(単著)	「解説」(沢木文『貧困女子のリアル』小学館) 188-190頁	2016. 2
	その他(分担執筆)	「女性ホームレス」(伊藤公雄・牟田和恵編、『ジェンダーで学ぶ社会学 全訂新版』、世界思想社) 94-95頁	2015.10
三管 利幸	論文(単著)	「大河内一男『独逸社会政策思想史』とヴェーバーの位置」(『九州国際大学教養研究』22巻1号) 47-77頁	2015. 7
	論文(単著)	「マックス・ヴェーバー『経済と社会』における旧稿から新稿への概念変更について—「支配」概念と「家父長制」概念」(『社会文化研究所紀要』77号、九州国際大学)	2016. 2
	論文(単著)	「伊波普猷著『沖縄女性史』の「亀裂」—真境名安興との「共著」として読む」(『九州国際大学教養研究』22巻3号) 73-97頁	2016. 2
峰島 厚	論文(単著)	「障害者の発達保障をめぐる課題」(『立命館産業社会論集』51巻1号) 139-164頁	2015. 6
	論文(単著)	「障害当事者は、差別禁止・合理的配慮の提供にどう向き合うのか—人権保障・労働権保障からみた差別禁止法制の検討」(『職業リハビリテーション』29巻2号、日本職業リハビリテーション学会) 25-30頁	2016. 3
	その他(共著)	『障害福祉現場における各事業所間のメンタルヘルスケアの支援体制の構築のために—日社済社会福祉助成金補助事業報告書—』(障害福祉現場のメンタルヘルス検討会編、NPO 法人大阪障害者センター) 25-27頁	2015. 4
	その他(単著)	「海外で戦争できる国にはならない—プラスアクションを」(『コンビニハウス会報』、NPO 法人コンビニの会) 3-5頁	2015. 7
	その他(単著)	「大人になるためには—法律・制度を暮らしに生かす」(『みんなのねがい』、全国障害者問題研究会) 31-32頁	2016. 1
宮口 幸治	著書(共著)	『性の問題行動をもつ子どものためのワークブック—発達障害・知的障害のある児童・青年の理解と支援』(川上ちひろ、明石書店) 1-152頁	2015. 4
	論文(単著)	「コグトレ みる、きく、想像するための認知機能強化トレーニング」(『刑政』123巻、法務省矯正局) 102-115頁	2015. 5
	学会報告等(単独)	「コグトレ みる、きく、想像するための認知機能強化トレーニング」(LD学会第24回大会、於：福岡国際会議場)	2015.10
森田 真樹	著書(分担執筆)	「国際理解教育と関連諸教育」(日本国際理解教育学会編、『国際理解教育ハンドブック』、明石書店) 16-23頁	2015. 6
	論文(単著)	「現代における国際教育の課題と教育実践の視座—グローバル・シティズンシップの育成という視点を含んで—」(『立命館教職教育研究』特別号) 121-131頁	2016. 3
	その他(単著)	「『知識』自体を問う単元の創設」(『社会科教育』647号、明治図書) 1頁	2015. 6
その他(単著)	「育てたい能力から考える社会科でのアクティブ・ラーニング 課題対応能力の視点から考える」(『社会科教育』680号、明治図書) 32-33頁	2015.12	

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
森田 真樹	その他(単著)	「現代における国際教育の課題と教育実践の視座—グローバル・シティズンシップの育成という視点を含んで—」(『社会科教育』680号, 明治図書) 102-104頁	2016. 2
	その他(共著)	「板書構成は授業の流れを反映させる? 授業の構造を反映させる?」(全国社会科教育学会編, 『新社会科授業づくりハンドブック』, 明治図書) 198頁	2015.10
	その他(分担執筆)	「グローバル化の時代における社会科教育とは」(草原和博他, 『社会科教育学研究法ハンドブック』, 明治図書) 275頁	2015.10
	研究発表等(共同)	「学校インターンシップは学生にどのような力を育てているのか—現場体験活動と教員採用試験の関係を中心に—」(原清治他, 全国私立大学教職課程研究連絡協議会 第35回研究大会, 於: 仙台大学)	2015. 5
門田幸太郎	論文(単著)	「 <i>t</i> 分布理解のための Excel によるシミュレーション— <i>t</i> 分布の確率分布曲線の導出について—」(『立命館産業社会論集』51巻1号) 215-238頁	2015. 6
	研究発表等(共同)	「小学校5年生時の遊び経験と青年期の社会性との関連(3)・(4)」(光浪陸美・伊藤崇達他, 日本心理学会第79回大会, 於: 名古屋国際会議場)	2015. 9
柳澤 伸司	著書(共編著)	「NIE が変える教育と新聞—学習材としての新聞の『危うさ』と『面白さ』」(浪田陽子・福岡良明共編著, 『メディア・リテラシーの諸相 表象・システム・ジャーナリズム』, ミネルヴァ書房) 33-60頁	2016. 3
	著書(分担執筆)	『新聞で育む, つなぐ』(日本NIE研究会編, 東洋館出版社) 8-23, 122-127, 158-163, 206-209頁	2015. 5
山岡 雅博	論文(単著)	「追いつめられる教師と子どもたち—教育への介入による教育の危機」(『演劇と教育』678号, 晩成書房) 23-29頁	2015.10
	論文(単著)	「子ども・子育て支援者のつながりと成長—管理強化と孤立社会の中で」(『生活教育』807号, 日本生活教育連盟) 53-59頁	2016. 2
	論文(共著)	「科学的認識に基づいた『道徳教育』に関する考察」(安井勝, 『立命館教職教育研究』3号) 43-53頁	2016. 3
	その他(単著)	「子どもの貧困—希望を奪われた子どもたち」(『手をつなぐ』329号, 全国手をつなぐ育成会連合会) 2-3頁	2015.11
	研究発表等(単独)	「いきづらい学校と『教育相談』の役割」(日本学校教育相談学会京都支部6月研修会, 於: 京都テルサ)	2015. 6
	研究発表等(単独)	「自分を語らない子どもたち」(日本生活教育連盟第67回夏季全国研究集会, 於: 大東文化大学)	2015. 8
山下 高行	翻訳(共訳)	ピーター・ドネリー著「権力、政治とオリンピック—2010年バンクーバー大会およびその他の事例から」(熊澤拓也共訳, 『スポーツ社会学研究』23巻第2号, 日本スポーツ社会学会) 3-22頁	2015.10
山本 耕平	著書(共著)	『「若者支援」のこれまでとこれから』(若者支援全国協同連絡会編, かもがわ出版) 75-89頁	2016. 2
	論文(単著)	「若者問題と社会福祉実践の課題—貧困化と孤立に対峙する実践を求めて—」(『総合社会福祉研究』45号, 総合社会福祉研究所) 2-11頁	2015. 4
	論文(単著)	「若者ソーシャルワークの構築にむけて—対象・視座・局面に関して—」(『社会福祉研究』第123号, 公益財団法人鉄道弘済会) 2-9頁	2015. 7
	研究発表等(単独)	「386世代が韓国若者支援実践に与えた影響に関する検討 PDF—「客体から主体へ」を築き上げた力—」(日本社会福祉学会第63回秋季大会, 於: 久留米大学)	2015. 9

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
山本 耕平	研究発表等 (単独)	「日本におけるひきこもりの実態と支援課題」(佛教大学総合研究所共同研究「脱貧困」戦略の構築—共生社会のグランドデザイン」プロジェクト シンポジウム「東アジアにおける貧困と脱貧困政策の課題」, 於: 佛教大学)	2015.12
吉田 誠	著書(共編著)	「1949年人員整理以後の日産における臨時工活用の本格化」(櫻井純理・江口友朗共編著, 『労働社会の変容と格差・排除: 平等と包摂をめざして』, ミネルヴァ書房) 89-116頁	2015.12
	論文(単著)	「経営労務の動向」(『2015年版 日本労働年鑑』85号, 法政大学大原社会問題研究所) 178-189頁	2015. 6
リム ボン	論文(単著)	「既得権益の解消と隣保館運営の適正化」(『立命館産業社会論集』51巻1号) 289-296頁	2015. 6